

教科・分野	週時間数	コース	クラス	担当者
世界史B	2	文理コース	ABC	花 田
目 標	①過去の学習を通して、現代社会の諸問題に関する理解を深める。 ②そのために世界の諸地域の形成過程、また相互の関係を特に近現代史を軸に考え、現在の問題として理解させる。			
大切に育てたいもの	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用・表現	知識・理解
	授業での学習を通して、世界の諸問題をより深く知ろうとする生徒を育てる。	多様な文化を知ることと異文化を尊重できる国際感覚を育てる。	図説などの資料を活用して、視覚による理解を深める。	暗記に終始せず、事象の因果関係を考えさせることで、歴史学の基礎的教養を学習する。

学期	考査	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期	中間	<ul style="list-style-type: none"> <li>東アジアの激動</li> <li>帝国主義と列強の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>列強の進出による東アジア秩序の変容を理解させる。</li> <li>中国・朝鮮の植民地化と、今日まで続く課題を理解させる。</li> <li>帝国主義の軍事・経済に偏らない多様な性格を理解させる。</li> </ul>
	期末	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界分割と列強の対立</li> <li>アジア諸国の改革と民族運動</li> <li>第一次世界大戦とロシア革命</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場獲得・経済的競争が軍拡競争の形になり、緊張が拡大する経過を理解させる。</li> <li>アジア各国の運動の特徴を理解させる。</li> <li>社会主義国ソ連の成立の意味を考えさせる。</li> </ul>
二学期	中間	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヴェルサイユ体制下の欧米諸国</li> <li>アジア・アフリカ地域の民族運動</li> <li>世界恐慌とファシズム諸国の侵略</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヴェルサイユ体制の問題点を考えさせる。</li> <li>民族主義運動に新たに社会主義運動が加わることをおさえる。</li> <li>経済的安定と平和について考えさせる。</li> </ul>
	期末	<ul style="list-style-type: none"> <li>第二次世界大戦</li> <li>冷戦と第三世界の独立</li> <li>現在の世界</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第二次世界大戦の勃発の経緯を教え、再々度の戦争を防ぐために必要なことを考えさせる。</li> <li>冷戦から多極化、ソ連の崩壊と戦後の世界の変遷を学び、現在の世界が抱えている諸課題の意味を考えさせる。</li> </ul>
三学期	期末	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリエントと地中海世界</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリエント世界の諸民族の興亡、文化的特徴を整理して理解させる。</li> <li>ポリス社会の変遷とギリシア文化の特徴、現代への影響を理解させる。</li> <li>ローマ帝国の興亡、ローマ文化の後世への影響を考えさせる。</li> </ul>
評価の方法		定期テスト、小テスト、課題などの提出物	
学習活動の特徴		世界地図を多用することで、視覚による理解を深める。 自身で考える時間を持つように努める。 構造図や概念図を用いることで、歴史の因果関係を理解する。	
授業の形態		一斉授業、講義形式	
使用教科書		『詳説 世界史B』(山川出版社)	
使用副教材		『最新世界史図説 タペストリー』(帝国書院) 『詳説世界史学習ノート』(山川出版社)	
用意するもの		教科書、副教材	
備 考			